

# 第21回 つくばSDGsパートナー 講座

障害者の社会参加・自立支援

# 第21回 つくばSDGs パートナー講座

- 1.法人紹介
- 2.精神障害者を取り巻く環境
- 3.生活支援での取り組み
- 4.就労支援での取り組み
- 5.地域交流
- 6.誤解や偏見
- 7.障害者の社会参加・自立支援に必要なもの

# 法人紹介

## 法人紹介

- 県内初の精神障害者社会復帰施設として平成7年9月オープン
  - 偏見・差別
    - 施設建設時、住民の猛反対  
(精神障害者に対する不安)
  - 茨城県つくば市上郷
    - 地域住民の雇用
      - ⇒施設従事者として雇用創出
      - ⇒地域住民の大半が農家だった為、米を直接取引
- 地域連携
  - その後、市内に7拠点、潮来市に1拠点を展開。現在では登録者は約1,000名。



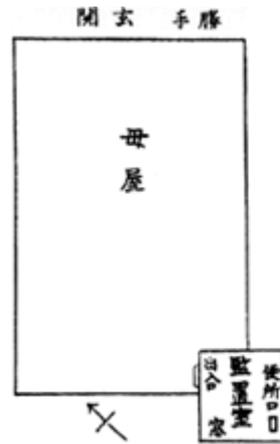
# 法人紹介

- 上郷事業所
  - 自立訓練（生活訓練）
  - グループホーム
- みどりの事業所
  - 地域活動支援センターⅠ型
  - 相談支援
  - 就業・生活支援センター
  - 就労移行支援
  - 就労定着支援
  - 就労継続B型
- サバー
  - グループホーム（つくば市内に4拠点）
- 潮来事業所
  - グループホーム
  - 就労継続A型
  - 就労継続B型
  - 相談支援

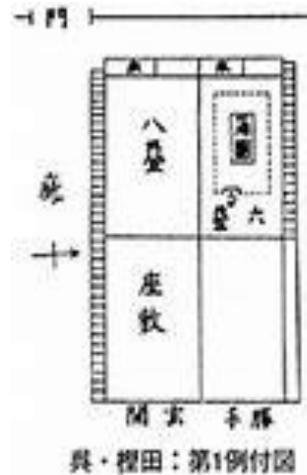


# 精神障害者を取り巻く環境

# 精神障害者を取り巻く環境



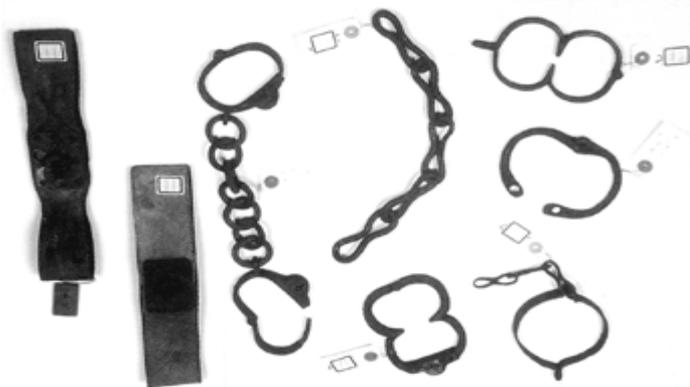
典・榎田：第4例付図



典・榎田：第1例付図



# 精神障害者を取り巻く環境



# 精神障害者を取り巻く環境

- ▶ ライシャワー事件
- ▶ 1964年（昭和39年）3月アメリカ大使館門前で当時19歳の統合失調症患者にナイフで刺され重傷を負った。この時に輸血を受け「これで私の体の中に日本人の血が流れることになりました」と発言し多くの日本人から賞賛を浴びた。この事件は「ライシャワー事件」と呼ばれ、精神衛生法改正など日本の医療制度に大きな影響を与えた。
- ▶ 翌年、保健所が精神衛生行政の第一線機関として位置づけられるようになり、保健所等を支援指導するための技術的中核機関として各都道府県に精神衛生センター（現：精神保健福祉センター）の設置が開始。

# 精神障害者を取り巻く環境

- ▶ ライシャワー事件
- ▶ 1964年（昭和39年）3月アメリカ大使館門前で当時19歳の統合失調症患者にナイフで刺され重傷を負った。この時に輸血を受け「これで私の体の中に日本人の血が流れることになりました」と発言し多くの日本人から賞賛を浴びた。この事件は「ライシャワー事件」と呼ばれ、精神衛生法改正など日本の医療制度に大きな影響を与えた。
- ▶ 翌年、保健所が精神衛生行政の第一線機関として位置づけられるようになり、保健所等を支援指導するための技術的中核機関として各都道府県に精神衛生センター（現：精神保健福祉センター）の設置が開始。

# 精神障害者を取り巻く環境

朝日新聞 夕刊 日本橋 丸山園 280939 日新

## ライシャワー米大使刺さる

19歳の異常少年、逮捕  
生命には別条なし

大使館前 右モモ、三週間の傷

大使館放火も自供

心から米に陳謝  
黒金長官が談話発表




【ワシントン27日電】米大使館前、右胸に刺さった19歳の少年が、米大使館放火も自供した。少年は、生命には別条なしと述べ、米政府にも陳謝した。黒金長官は、心から米に陳謝し、黒金長官が談話を発表した。

【ワシントン27日電】米大使館前、右胸に刺さった19歳の少年が、米大使館放火も自供した。少年は、生命には別条なしと述べ、米政府にも陳謝した。黒金長官は、心から米に陳謝し、黒金長官が談話を発表した。

朝日新聞 夕刊 日本橋 丸山園 280939 日新

## 「異常者の犯罪」どう防ぐ

ライシャワー大使刺傷事件 座談会

### 野放し状態なくせ

### 隔離の方法、研究が必要

相談できる専門家を



【ワシントン27日電】米大使館前、右胸に刺さった19歳の少年が、米大使館放火も自供した。少年は、生命には別条なしと述べ、米政府にも陳謝した。黒金長官は、心から米に陳謝し、黒金長官が談話を発表した。

【ワシントン27日電】米大使館前、右胸に刺さった19歳の少年が、米大使館放火も自供した。少年は、生命には別条なしと述べ、米政府にも陳謝した。黒金長官は、心から米に陳謝し、黒金長官が談話を発表した。

# 生活支援での取り組み

# 生活支援での取り組み



# 生活支援での取り組み

- ▶ 65歳以上の高齢者向けのグループホーム
  - ▶ 高齢・長期入院者の社会復帰
  - ▶ 人生をもう一度楽しんで欲しい
- ▶ 対象者
  - ▶ 全ての方が長期入院患者
  - ▶ 30年～40年の長期入院

# 生活支援での取り組み

グループホームの建設に向けての準備と準備段階で起こった出来事

- ▶ 近隣の病院を訪問
- ▶ 新事業についての説明
- ▶ 見学会の実施
  - ▶ 送迎の車の中で嘔吐してしまう
- ▶ 対象者の決定
  - ▶ 定員に対して多数の申し込みあり
- ▶ 体験利用実施
  - ▶ 緊張してしまい普段と違う状況が出てしまう
  - ▶ 体験利用の中断

# 生活支援での取り組み

## 対象者

	年齢	服薬管理	金銭管理	外出	電話	洗濯	日中活動
A氏	71歳	×	○	○	○	○	○
B氏	68歳	○	○	○	○	○	○
C氏	70歳	×	○	○	○	○	○
D氏	75歳	×	○	○	○	○	×
E氏	67歳	×	×	○	○	○	○
F氏	70歳	○	○	○	○	○	○
G氏	67歳	○	○	○	○	○	○

# 生活支援での取り組み

なぜ長期入院になってしまったのか？（医療機関側から）

1. 本人自身の退院への不安
2. 家族の心配・不安による反対
3. 退院先である社会資源の少なさ
4. 病院での退院に向けての取り組み

# 生活支援での取り組み

何が必要なのか

- 1.病院との関係作り
- 2.長期入院患者の退院に対する不安の軽減
- 3.スキルが高い方が多かった為、そのスキルを活かしたり、表現できる場の活用
- 4.積極的な取り組みと環境づくり
- 5.人材育成

# 就労支援での取り組み

# 就労支援での取り組み

- ▶ 授産施設配属（現在の移行支援）
- ▶ 毎日、朝から晩まで弁当製造
- ▶ 500食～600食（自分の記憶では最高641食）
- ▶ 仕込み、調理、片付け、配達等  
（とにかく、利用者と一緒に汗をかく）



# 就労支援での取り組み

- ▶ 「就職したいんだよね」という何気ない利用者の声
  - ▶ 入所時の利用者からの声は「就職して、独り暮らしがしたい」という声が大半
  - ▶ 授産施設では利用者の給料は5万円程度
  - ▶ 年金と合わせて単身生活ができるようになることが目標

でも？

- ▶ 実際は退所する人はほとんどおらず、毎日変わらないメンバーでの作業
- ▶ 就職する人はいない
- ▶ 当初の「就職したい」という目標はどこに？
- ▶ これでいいの？

# 就労支援での取り組み

- ▶ 就労支援を本格的に始動
- ▶ 利用者の思いを形にしてみたい(就職してほしい)
  - ▶ 障害者職業センター
  - ▶ ハローワーク
  - ▶ 企業訪問

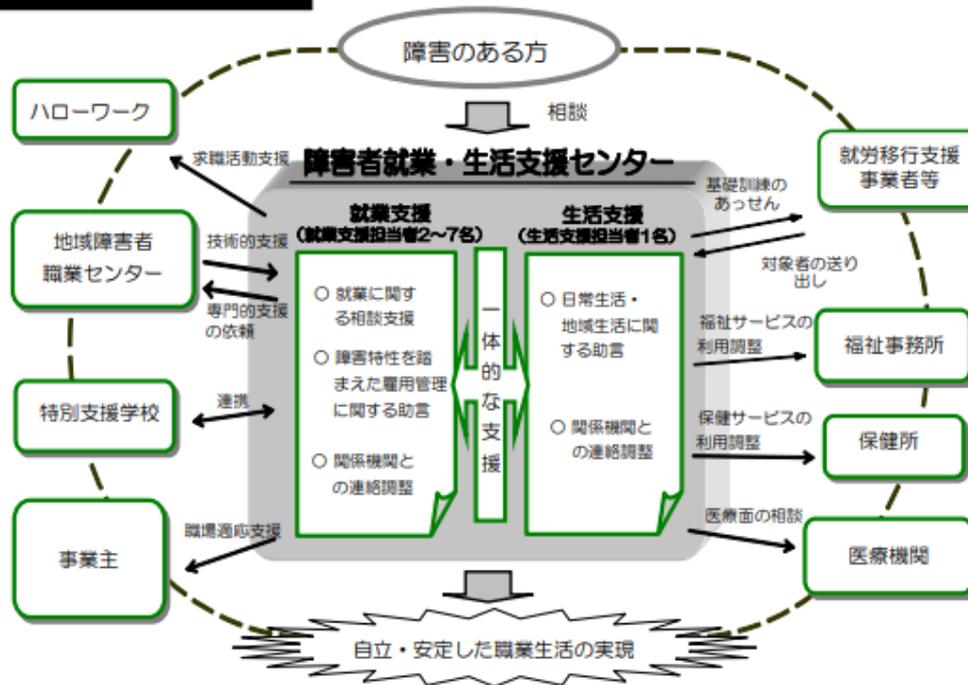
# 就労支援での取り組み

- ▶ 鶏工場での1ヶ月の職場体験（約1時間かけて工場へ利用者と一緒に出勤）
- ▶ 利用者にあった仕事を探す
- ▶ 従業員とのコミュニケーション
- ▶ 就職決定
- ▶ 利用者の死

# 就労支援での取り組み

障害者の身近な地域において就業面と生活面の一体的な相談・支援を行う「障害者就業・生活支援センター」を設置（令和4年4月現在 338センター）

## 雇用と福祉のネットワーク



## 業務内容

就業及びそれに伴う日常生活上の支援を必要とする障害のある方に対し、センター窓口での相談や職場・家庭訪問等を実施します。

### <就業面での支援>

- 就業に関する相談支援
  - ・ 就職に向けた準備支援（職業準備訓練、職場実習のあっせん）
  - ・ 就職活動の支援
  - ・ 職場定着に向けた支援
- 障害のある方それぞれの障害特性を踏まえた雇用管理についての事業所に対する助言
- 関係機関との連絡調整

### <生活面での支援>

- 日常生活・地域生活に関する助言
  - ・ 生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の日常生活の自己管理に関する助言
  - ・ 住居、年金、余暇活動など地域生活、生活設計に関する助言
- 関係機関との連絡調整

# 就労支援での取り組み

	精神	知的	身体	発達	難病	高次脳機能障害	合計
全体	243	217	36	80	1	4	582
在職中	130	148	20	50	0	2	350

2023.3月末時点 つくばLSC実績

# 就労支援での取り組み

何が必要なのか

1. 企業等、受け入れ側との関係作り
2. 利用者の就職に対する不安の軽減
3. スキルが高い方が多かった為、そのスキルを活かしたり、表現できる場の活用
4. 積極的な取り組みと環境づくり
5. 人材育成

# 地域交流

# 地域交流

- ▶ 地域との結びつき
  - ▶ 自治会の立ち上げ
  - ▶ 公民館的な役割
  - ▶ 施設の祭りではなく地域の祭り
  - ▶ 地域住民を巻き込んだプログラム

誤解や偏見

# 誤解や偏見

- ▶ コンビニでの出来事

# 障害者の社会参加・自立支援に 必要なもの

# 障害者の社会参加・自立支援に 必要なもの

1. 障害者自身の不安の軽減
2. 家族の不安の軽減
3. 誤解や偏見に対する取り組み（事業所）
4. 市民の障害者に対する理解促進の場の確保
5. 障害者福祉を担う人材の確保

ご清聴ありがとうございました。